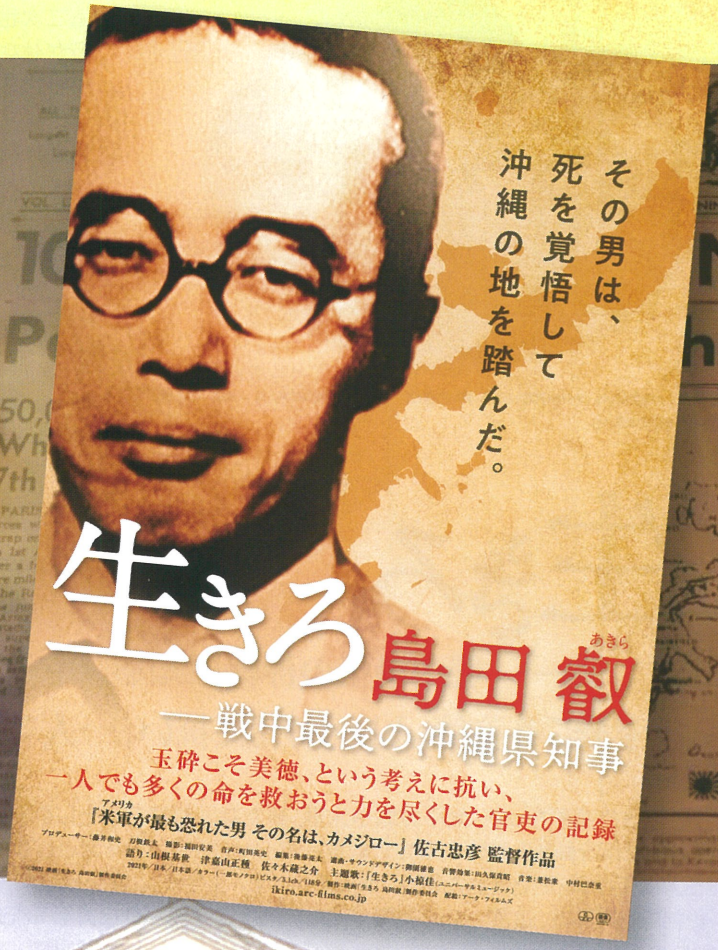
Abeno Community Cinema あべのコミュニティシネマ vol.75

忘れてはならない名作映画上映会

コロナ禍で2年間、休止を余儀なくされていた「忘れてはならない名作映画上映会」を
ようやく再開できるようになりました。9回目を迎える今回はロシアの侵攻により悲惨な状況になった
ウクライナでワンシーンが撮影された映画「ひまわり」と、沖縄が日本に返還されて50年ということから、
ドキュメンタリー映画「生きろ 島田叡(あきら) 戦中最後の沖縄県知事」の2作を上映します。
改めて“平和”を考える機会になればと思います。



神戸出身で大阪に勤務していた島田叡。
彼が沖縄県知事に赴任した経緯と覚悟、そして
着任後の葛藤や苦悩を描いたドキュメンタリー

監督:佐古忠彦
語り:山根基世、津嘉山正種、佐々木蔵之介
主題歌:小椋佳

(2021年制作/118分/日本/カラー)

戦争で引き裂かれた男と女を描いた名作。
印象深いひまわり畑のシーンが、当時ソ連だった
ウクライナで撮影された事から、
平和への願いを込めて全国で上映が広まっている。

監督:ヴィットリオ・デ・シーカ
出演:ソフィア・ローレン
マルチェロ・マストロヤンニ
リュドミラ・サベリーエワ
音楽:ヘンリー・マンシーニ

(年制作/107分/イタリア/カラー)

2022.8.26(FRI) 阿倍野区民センター 小ホール(地下1階)

主催 (株)大阪映画センター(06-6719-2233) / 協力 ㈱ビケンテクノ(06-4398-9877)

ひまわり

監督：ヴィットリオ・デ・シーカ
出演：ソフィア・ローレン
　　マルチェロ・マストロヤンニ
　　リュドミラ・サベリーエワ
（1970年制作／107分／イタリア／カラー）

ヘンリー・マンシーニによる甘く切ないテーマ曲にのせ、
互いに思い合いながらも戦争によって引き裂かれた夫婦の悲しき愛を描く

© 1970 – COMPAGNIA CINEMATOGRAFICA CHAMPION(IT) – FILMS CONCORDIA(FR) – SURF FILM SRL.
ALL RIGHTS RESERVED.

【ストーリー】
第二次世界大戦下、陽気なアントニオと結婚したナポリ女のジョバンナは、夫を戦争に行かせないために狂言芝居までするが、アントニオは地獄のソ連戦線に送られてしまう。終戦後も戻らない夫を探すために、ジョバンナはソ連に向かい夫の足跡を追う。
しかし、広大なひまわり畑の果てに待っていたのは、美しいロシア娘と結婚し、子供に恵まれた幸せなアントニオの姿だった…。

＜ひまわり畑の撮影場所について＞
在ウクライナ日本大使館のホームページによると、撮影現場はキーウ（キエフ）から南へ500kmほど行ったヘルソン州と言われています。ロシア侵攻以前は毎年7月下旬頃に一面に咲きわたるひまわりを見ることができました。但し，日本で販売されている「ひまわり」の ビデオの説明書にわざわざこう書いてあるのです。「（映画に出てくるひまわり畑は）ウクライナと信じておられる方には申し訳ないが，ひまわり畑はモスクワのシェレメチェボ国際空港の近くだった。」この映画が撮影された1960～70年代及びビデオが販売された時代には，ウクライナは旧ソ連の一共和国であり，外国人はクレムリンから80km以上離れてはいけないと言う規則があったため，多くの観光客がウクライナに押しかけるのを当局が恐れたせいかもしれません。

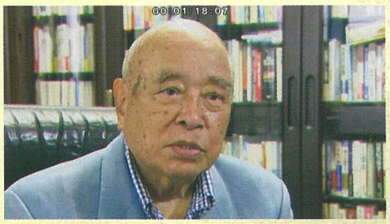
生きろ 島田 叡（あきら）
—— 戦中最後の沖縄県知事

監　督：佐古忠彦（「米軍が最も恐れた男、その名はカメジロー」監督）
語　り：山根基世、津嘉山 正種、佐々木蔵之介
主題歌：小椋佳
（2021年制作／118分／日本／カラー）

玉砕こそ美徳、という考えに抗い、一人でも多くの命を救おうと力を尽くした官吏の記録

【ストーリー】
日本の敗色濃厚だった、太平洋戦争末期。新たな沖縄県知事として任命された島田叡は、大規模な疎開促進や大量の米を確保するなど、県民のため様々な施策を断行していく。しかし戦況が悪化し、県民が命を落としていく中、島田は軍部から苦渋の選択を強いられる。戦時下の教育により「玉砕こそが美徳」とされた時代、周囲の人々に「生きろ」と言い続けた島田の生き方、考え方はどのように育まれたのか。沖縄戦を生き延びた県民たち、軍や県の関係者、遺族への取材を中心に、新たに発見された資料を交えながら、その生涯に迫る。

島田 叡（あきら）　1901年（明治34年）—1945年（昭和20年）
神戸市須磨区に医者の長男として生まれ、中学・高校と野球部で活躍、東京帝国大学法学部でも野球部のスター選手として名を馳せ、東京ドームにある野球殿堂博物館にも名が刻まれている。卒業後は内務省に入省、10府県で勤務、昭和19年8月に大阪府内政部長となり、昭和20年1月に沖縄県知事の辞令があり赴任する。



島田叡氏は、行政官として本当に尊敬すべき、本物の人物じゃないかと思います。
—— 故・大田昌秀　元沖縄県知事

©2021　映画『生きろ 島田叡』製作委員会』

2022.8.26（金）

① ひまわり　11:00～12:50
② 生きろ 島田叡　13:40～15:40
③ ひまわり　16:10～18:00
④ 生きろ 島田叡　18:30～20:30

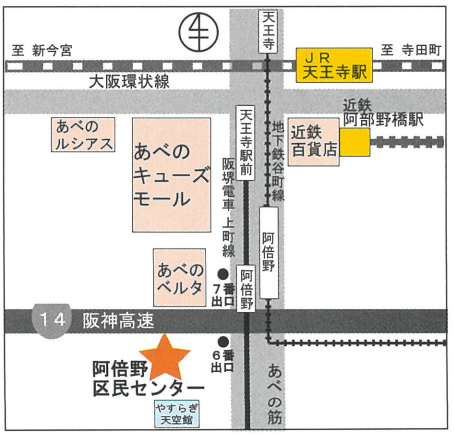
	1作品	2作品
会員価格	800円	1300円
当日（一般）	900円	1400円

（シニア割引・障がい者割引なし）

阿倍野区民センター
小ホール（地下1階）
〒545-0052
大阪市阿倍野区阿倍野筋4-19-118
● 地下鉄谷町線「阿倍野」6番出口反対側すぐ
● 阪堺上町線『阿倍野』下車徒歩2分

こちらのチラシご持参で3名様まで
会員価格でご鑑賞頂けます！

※必ずマスク着用でご来場ください。
※体調不良や発熱がある場合はご来場をお控えください。
※入場方法や観覧方法等について、制限を設けさせていただく場合がございます。



● お問合せ ●
大阪映画センター　TEL 06-6719-2233